



Yamano Holdings

2025年3月期 決算説明資料

2025年5月15日

株式会社ヤマノホールディングス
(東証スタンダード 7571)

目次

- I. エグゼクティブサマリー
- II. 2025年3月期 決算概要
- III. 中期経営計画の進捗
- IV. 2026年3月期 計画
- V. Appendix

目次

- I. エグゼクティブサマリー
- II. 2025年3月期 決算概要
- III. 中期経営計画の進捗
- IV. 2026年3月期 計画
- V. Appendix

1. 2025年3月期決算の総括

- ・ 既存事業は利益体質へ転換、新規事業の成長も寄与し、全体で増収・増益。黒字化達成
- ・ 収益構造改革と徹底したコスト最適化が奏功し、全セグメントで収益改善
- ・ 中計初年度として成果を示す形で、2期ぶりに復配を実施(年間配当 1.0円)

2. 中期経営計画の進捗状況

- ・ 既存事業の収益安定化と新規事業の成長が進み、初年度として確かな一歩を踏み出す
- ・ 一方で、期中を通じて投資家の反応は限定的。「成長期待感の醸成」が課題
- ・ 2年目は、着実に成長軌道へと乗せるべく、事業ポートフォリオの最適化を一層推進

3. 今期の計画と業績予想

- ・ 中期計画に沿った成長戦略の実行、計画進捗の適正な管理・評価の観点から、報告セグメントを2つに再編成。両軸によるバランス経営で持続的な企業価値の創出を目指す。

ニューバリューセグメント : 成長ポテンシャルを持つ新領域への成長投資を加速

コアバリューセグメント : 利益の安定化、C/Fの最大化を目指し、事業基盤を強化

【2026年3月期の業績予想】

売上高144億円、EBITDA6.4億円、営業利益5億円、経常利益4.5億円、当期純利益3.2億円
1株当たり年間配当1.5円

目次

- I. エグゼクティブサマリー
- II. 2025年3月期 決算概要
- III. 中期経営計画の進捗
- IV. 2026年3月期 計画
- V. Appendix

連結損益計算書の概要

- 売上高 既存2事業が減収するも教育事業の伸長で、増収を確保
- EBITDA/営利 全セグメントで収益が改善し、全社では大幅な増益を実現
- 当期利益 当初目標の最終黒字を達成 ※過去の投資評価損も処理

(単位:百万円)

	2024/3	2025/3	増減額	増減比	2024/12 (修正予想)	増減額	増減比
売上高	13,837	13,964	+127	+0.9	14,000	△35	△0.3
EBITDA (EBITDAマージン)	220 1.6%	368 2.6%	+147	+66.7	370 2.6%	△1	△0.5
営業利益 (利益率)	100 0.7%	256 1.8%	+155	+153.9	260 1.9%	△3	△1.5
経常利益 (利益率)	102 0.7%	236 1.7%	+134	+131.4	230 1.6%	+6	+2.8
当期純利益 (利益率)	△28 —	41 0.3%	+70	—	40 0.3%	+1	+4.4
EPS(円)	△0.83	1.20	+2.03	—			
1株配当(円)	—	1.0	+1.0	—			
ROE	△2.3%	3.3	—	—			

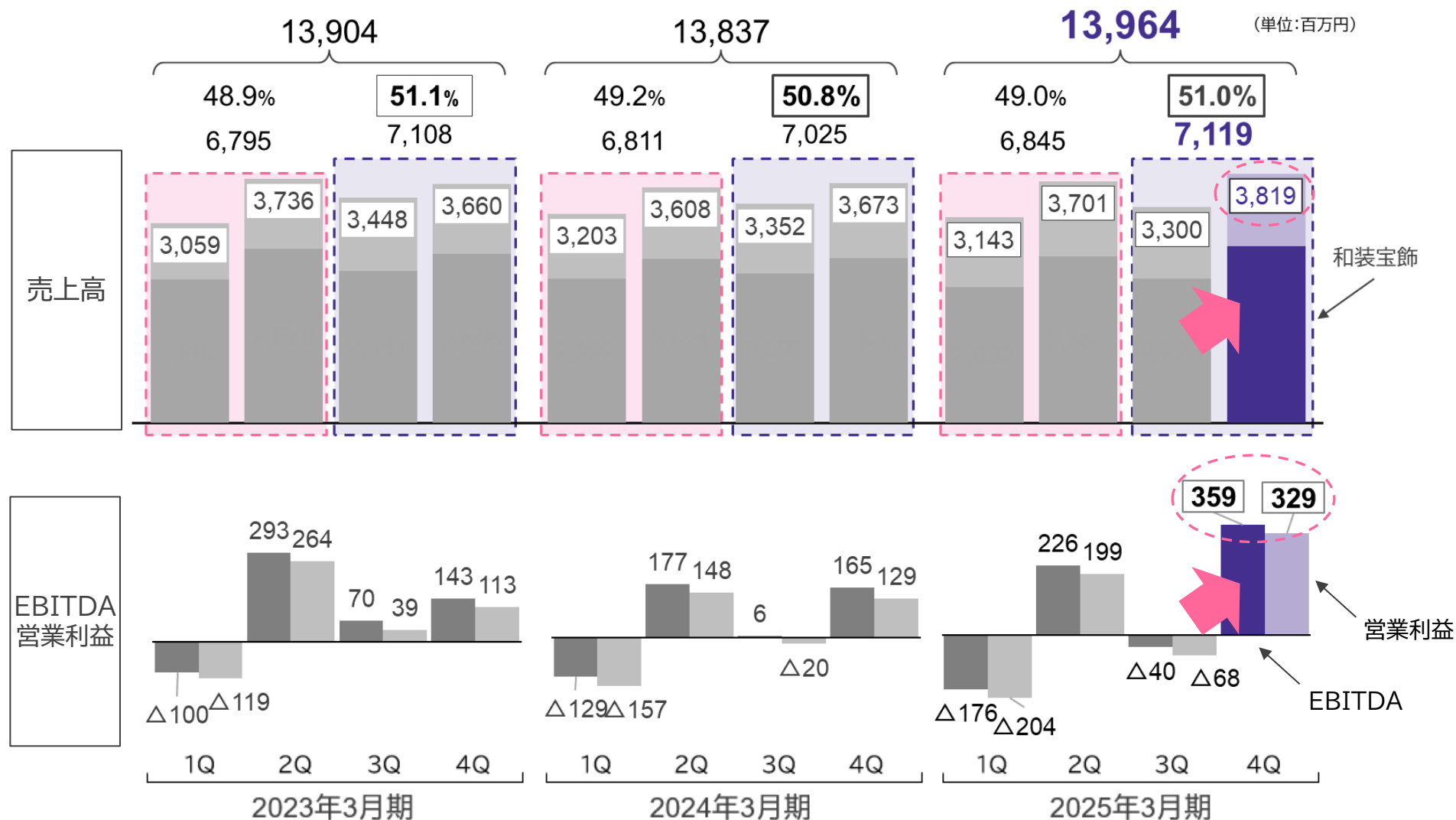
※EBITDA 営業利益と減価償却費
(のれんに係る償却費含む)の合計額

売上高／EBITDA／営業利益 推移



Yamano Holdings

- 売上は、和装宝飾の影響で四半期では変動したが、半期では例年通り安定した推移となる
- 4Qは和装宝飾の売上増に加え、各事業の収益が着実に改善し、大幅な増益を達成



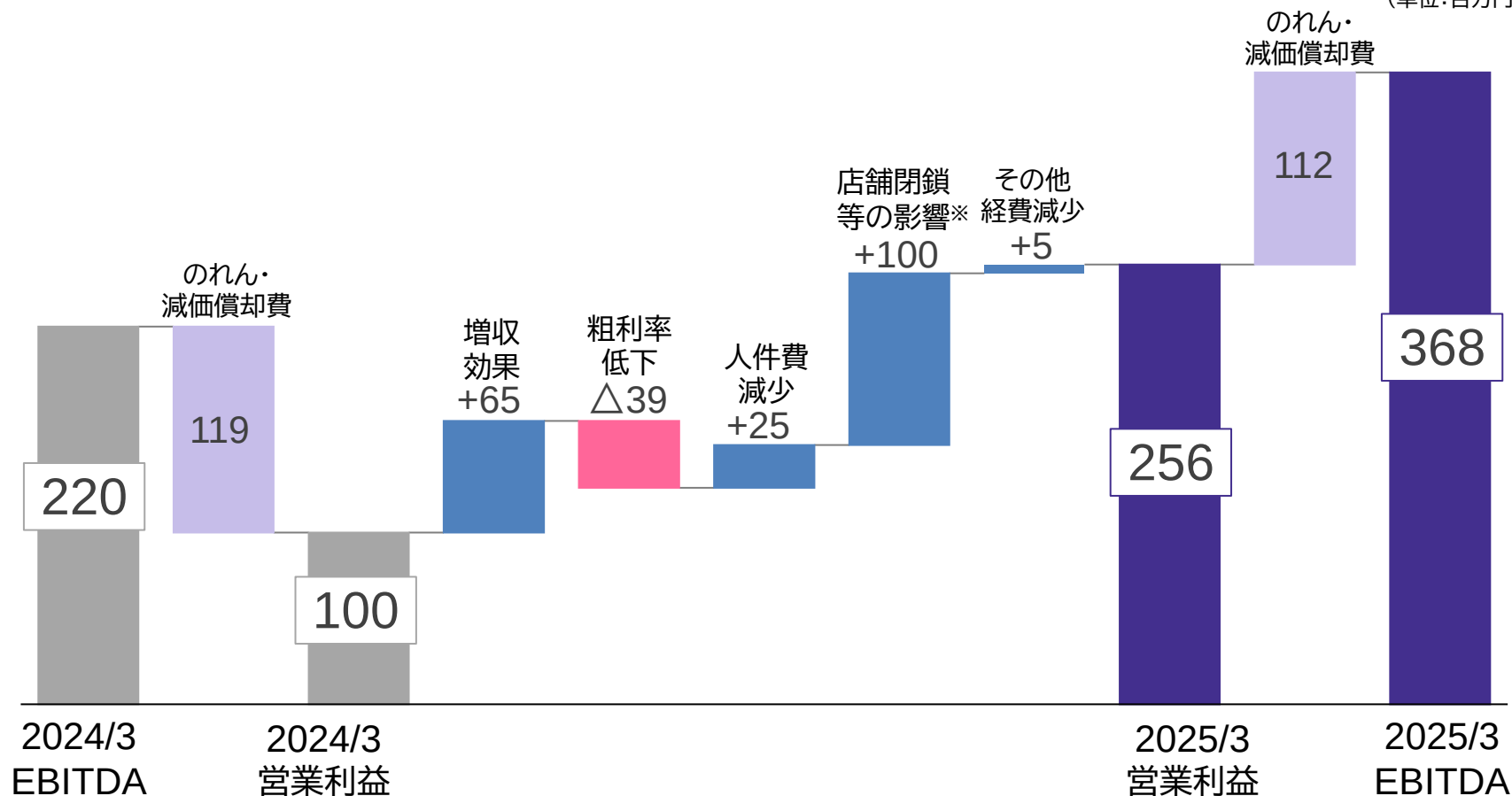
EBITDA／営業利益 増減要因



Yamano Holdings

- 収益安定化策の進展で不採算店舗が減少し、固定費削減で損益分岐点が改善
- 粗利率は和装宝飾のキャンペーン施策で低下するも、店舗当りの営業利益は上昇

(単位:百万円)



※店舗閉鎖等による人件費変動分は除く

連結貸借対照表の概要



Yamano Holdings

(単位:百万円)

	2024/3末	構成比	2025/3末	構成比	増減
資産合計	8,647	100.0%	7,956	100.0%	△690
流動資産	6,865	79.4	6,077	76.4	△788
固定資産	1,781	20.6	1,879	23.6	+97
有形固定資産	317	3.7	353	4.4	+36
無形固定資産	363	4.2	426	5.4	+62
投資その他	1,100	12.7	1,098	13.8	△1
負債・純資産合計	8,647	100.0%	7,956	100.0%	△690
負債合計	7,423	85.9	6,628	83.3	△794
流動負債	5,560	64.3	4,817	60.6	△742
短期借入金※	1,753	20.3	1,385	17.4	△368
固定負債	1,863	21.5	1,811	22.8	△52
長期借入金	1,462	16.9	1,299	16.3	△162
純資産合計	1,223	14.1	1,327	16.7	+103

主な変動要因

総資産

- ・有利子負債減等による現預金の減少(△293)
- ・売掛金の減少(△424)
- ・呉服販売管理システム開発に伴うソフトウェア仮勘定の増加(+101)

負債

- ・支払手形及び買掛金の減少(△213)
- ・短期借入金※の返済による減少(△368)
- ・受注残増等による前受金の減少(△139)
- ・長期借入金の返済等によるの減少(△162)

※1年以内返済予定長期借入金含む

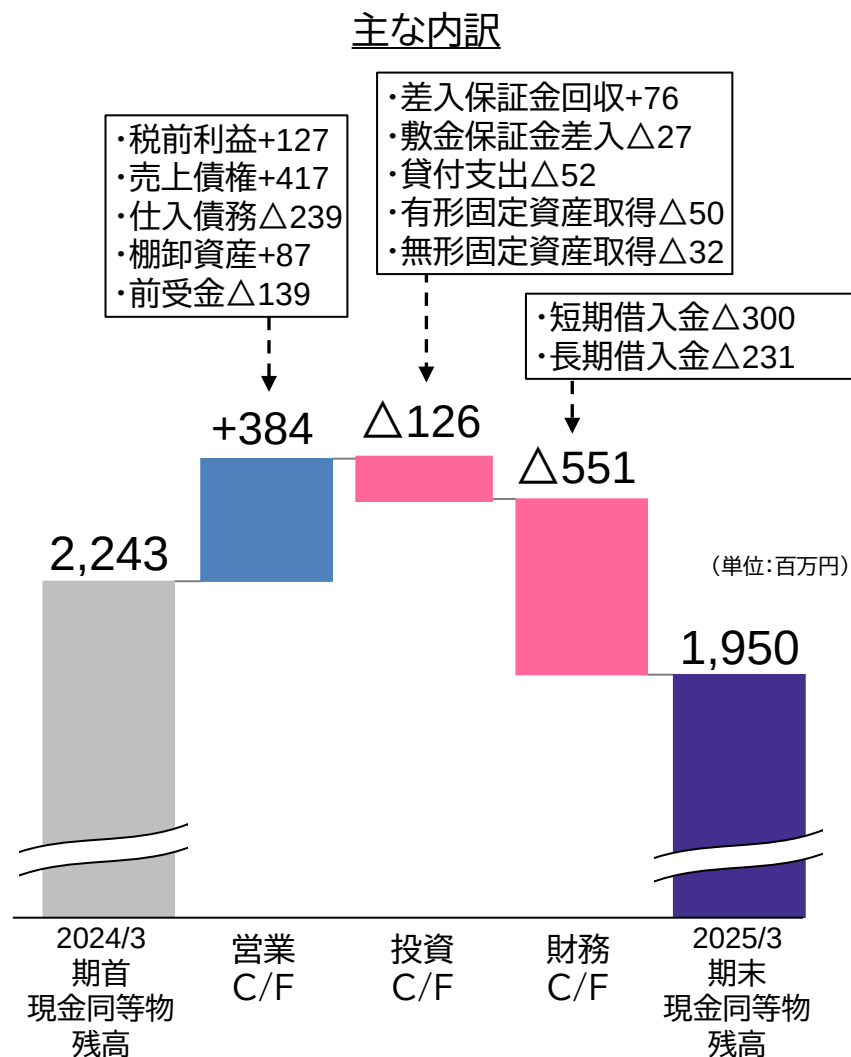
純資産

- ・当期純利益の計上(+41)
- ・その他有価証券評価差額金の増加(+61)

自己資本比率 16.7%(+2.6pt)

- 税前利益の増加、運転資本の改善で営業キャッシュフローが増加
- フリーキャッシュフローもプラスを継続

	2024/3	2025/3	前期 増減
営業キャッシュフロー	209	384	+175
投資キャッシュフロー	9	△126	△136
フリーキャッシュフロー	219	258	+38
財務キャッシュフロー	△806	△551	+255
現金及び現金同等物の増減額	△587	△293	+294
現金及び現金同等物の期首残高	2,830	2,243	△587
現金及び現金同等物の期末残高	2,243	1,950	△293



セグメント別売上高／営業利益



Yamano Holdings

- 主力の和装宝飾事業は売上を維持し、増益を確保
- 利益率の高い教育事業の売上構成比が上昇(8.3→10.4p)

(単位:百万円)

	売上高				営業利益			
	2024/3	2025/3	前年比		2024/3	2025/3	前年比	
			増減	%			増減	%
美容	1,931 ※1(14.0%)	1,776 (12.7%)	△154 (△1.3p)	△8.0	6 ※2(0.3%)	25 (1.4%)	+19 (+1.1p)	+310.6
和装宝飾	9,579 (69.2%)	9,582 (68.6%)	+2 (△0.6p)	+0.0	138 (1.4%)	181 (1.9%)	+42 (+0.4p)	+30.5
DSM	868 (6.3%)	834 (6.0%)	△34 (△0.3p)	△4.0	△49 (△5.7%)	△31 (△3.8%)	+17 (+1.9p)	—
教育	1,150 (8.3%)	1,453 (10.4%)	+302 (+2.1p)	+26.3	94 (8.2%)	123 (8.5%)	+28 (+0.2p)	+30.2
その他	307 (2.2%)	318 (2.3%)	+11 (+0.1p)	+3.7	△69 (△22.6%)	△23 (△7.3%)	+46 (+15.3p)	—
調整額	—	—	—	—	△20	△18	+1	—
合計	13,837	13,964	+127	+0.9	100	256	+155	+153.9

※1売上高欄の()内の数字は、全社売上に対する構成比

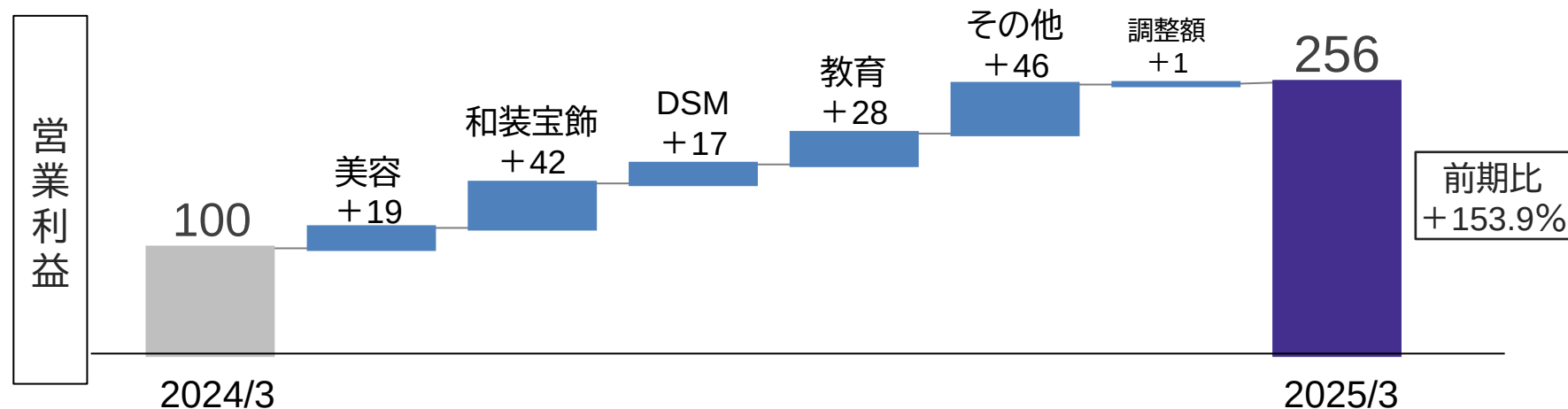
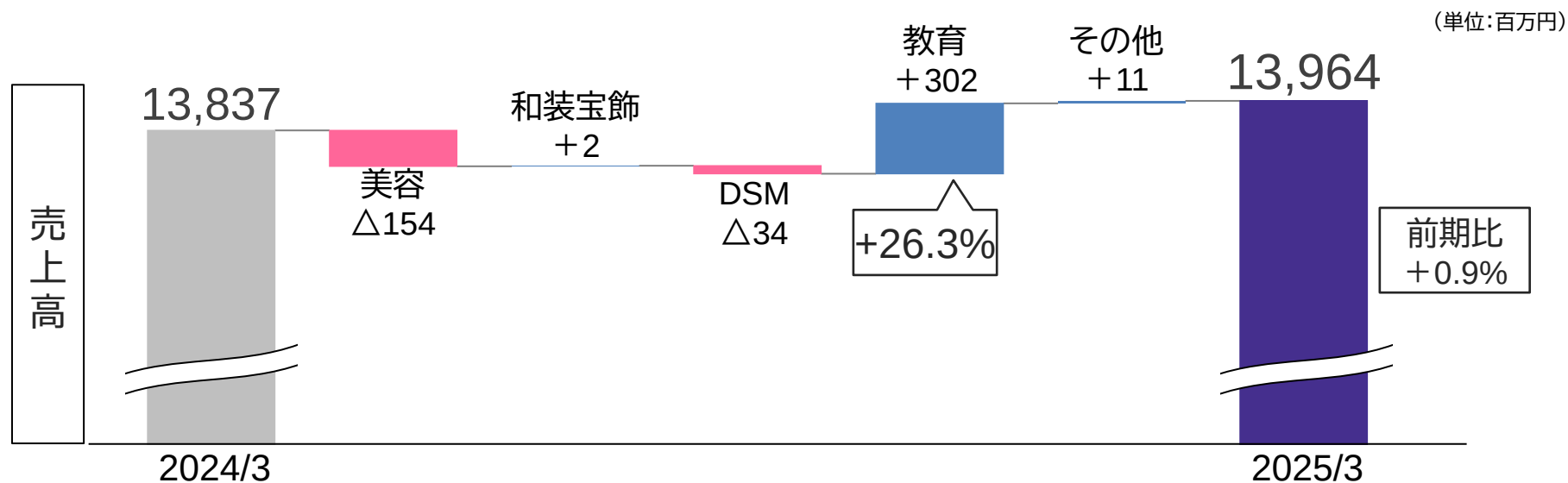
※2営業利益欄の()内の数字は、各セグメントの利益率

セグメント別 売上高／営業利益 増減



Yamano Holdings

- 売上高 美容、DSM事業は減少するも、教育事業が伸長し全社では増収
- 営業利益 全セグメントで増益を確保し大幅に改善

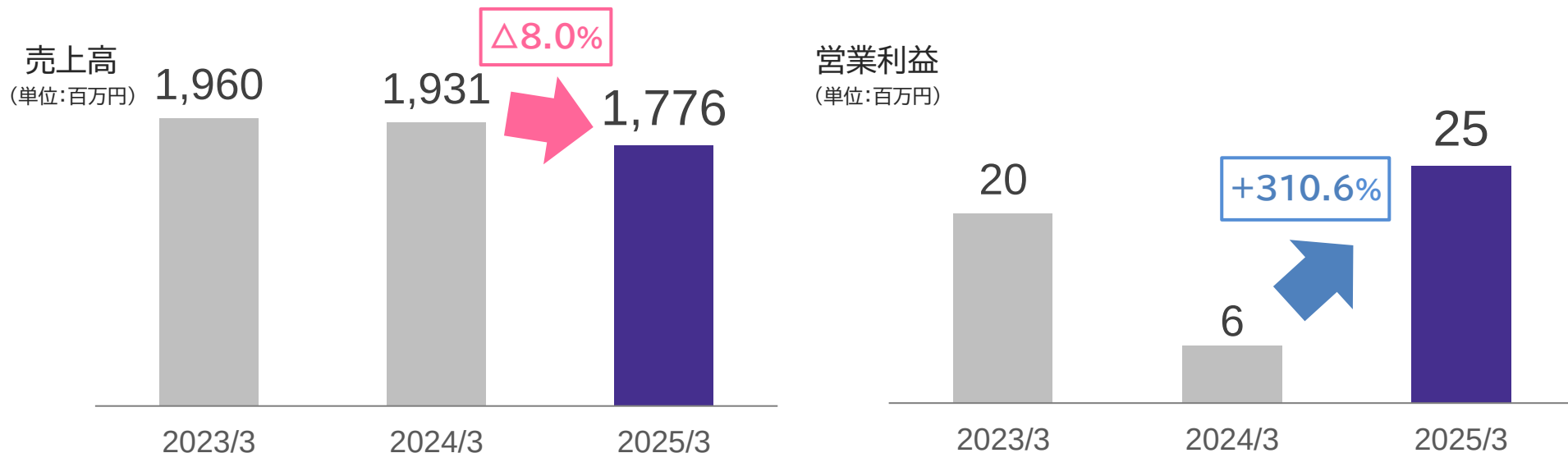


各セグメントにおける初年度の施策結果

■ 3つの施策が期首より着実に進捗したことで、全部門で収益性が改善

セグメント	重点施策		施策効果
美容	営業体制最適化		- 収益性改善、増益を達成 ➢ 1店舗当り利益率上昇、損益分岐点改善
和装宝飾	営業体制最適化		- 収益性改善、増収増益を達成 ➢ 1店舗当り売上高上昇、損益分岐点改善
DSM	営業体制最適化	不振事業構造改革	- 収益性改善、赤字幅縮小 ➢ 1拠点当り売上・利益率上昇、損益分岐点改善
教育	営業体制最適化	伸長事業盤石化	増収・増益を継続 ➢ 高収益率を維持しつつ、事業規模拡大
その他 (リユース)	営業体制最適化	不振事業構造改革	- 収益性改善、赤字幅大幅縮小 ➢ 粗利率改善、固定費減少、損益分岐点改善

■ 店舗数減少で減収となるも、営業資源の最適化が進み増益を確保



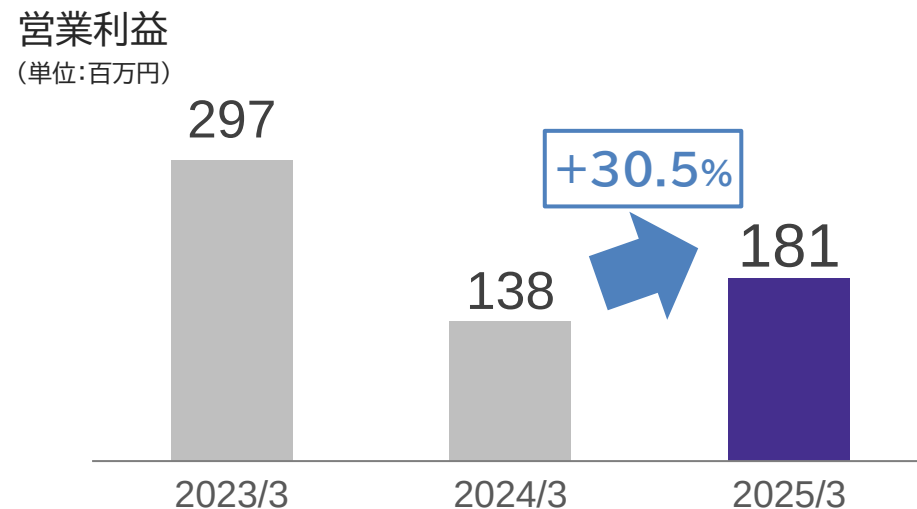
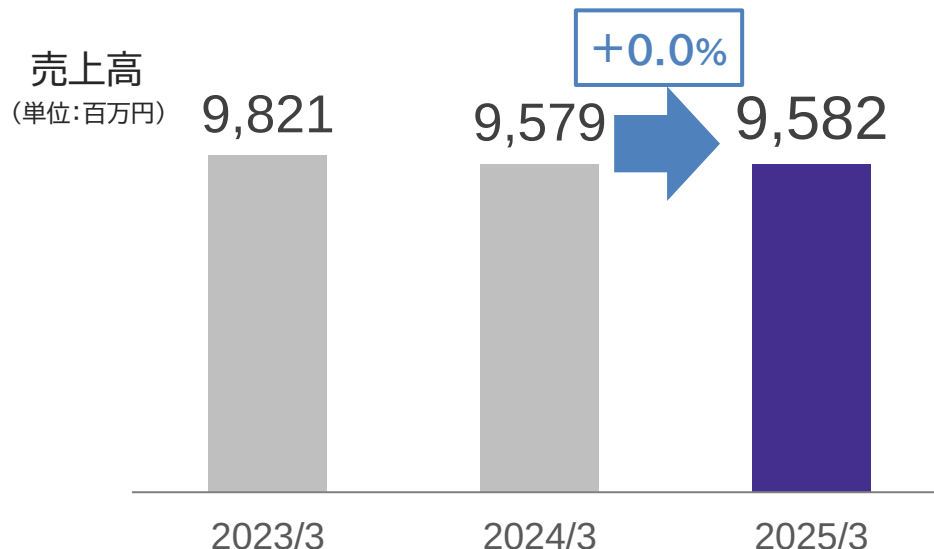
<主要KPI>

	前年比	評価
1店舗当り 平均売上高	99.7%	維持 ➡
1店舗当り 平均営利率	+1.1pt	改善 ⬆
損益分岐点	△10.4%	改善 ⬆

<重点施策の効果>

- 事業環境の変化に対し、店舗業態転換やFC化等を推進、1店舗当り平均売上高は維持
- 不採算店舗の閉鎖を実行、営業資源の最適化が進み、収益性向上に繋がる
- 育成強化による店舗稼働率の上昇、店舗閉鎖による固定費削減効果等により、収益力改善

■ 店舗数減少するも売上高は前年を維持、店舗当り収益が改善し大幅増益



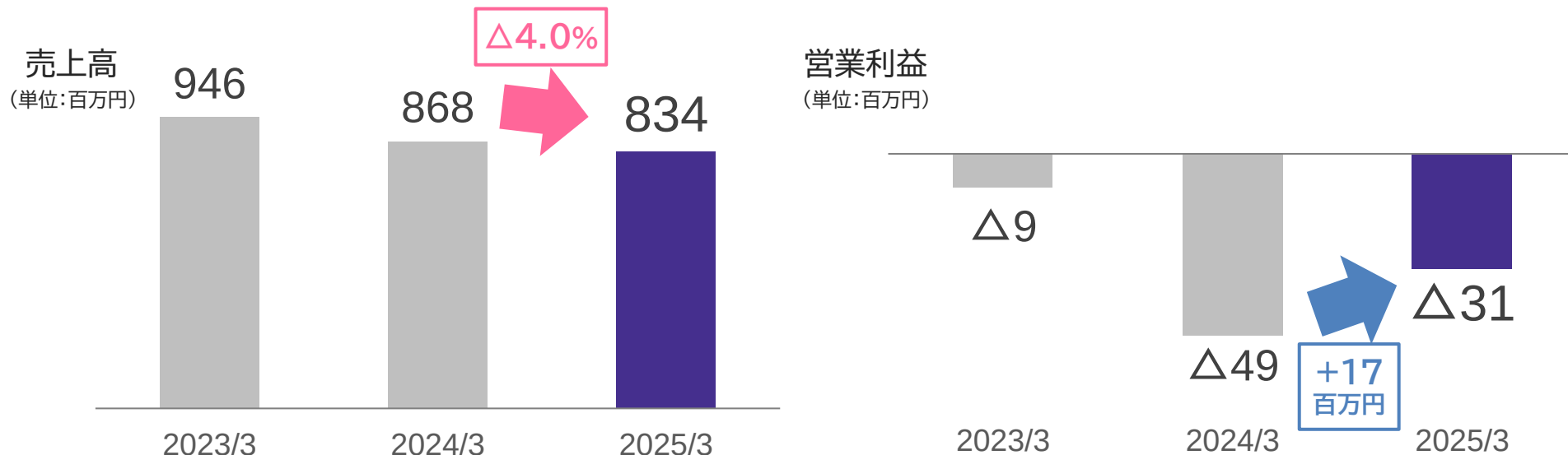
<主要KPI>

	前年比	評価
1店舗当り 平均売上高	105.4%	上昇 ↑
1店舗当り 平均営利率	+0.4pt	改善 ↑
損益分岐点	△0.6%	改善 ↑

<重点施策の効果>

- 大型展示販売会等が好調に推移し受注は改善。4Qに集中した商品引き渡しも計画通りに完了
- 不採算店舗の閉鎖等を進めた結果、運営効率が上昇、1店舗当りの平均売上高、営利率とも上昇
- 新規顧客獲得に向けた施策の影響で粗利率がやや低下するも固定費の大幅減で収益性改善

■ 拠点統廃合の影響で減収となるも、利益面は回復傾向、赤字幅縮小



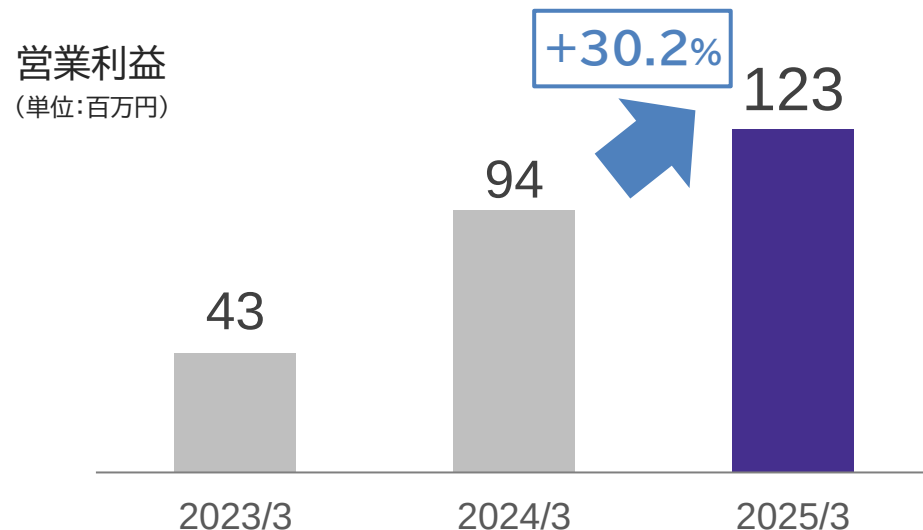
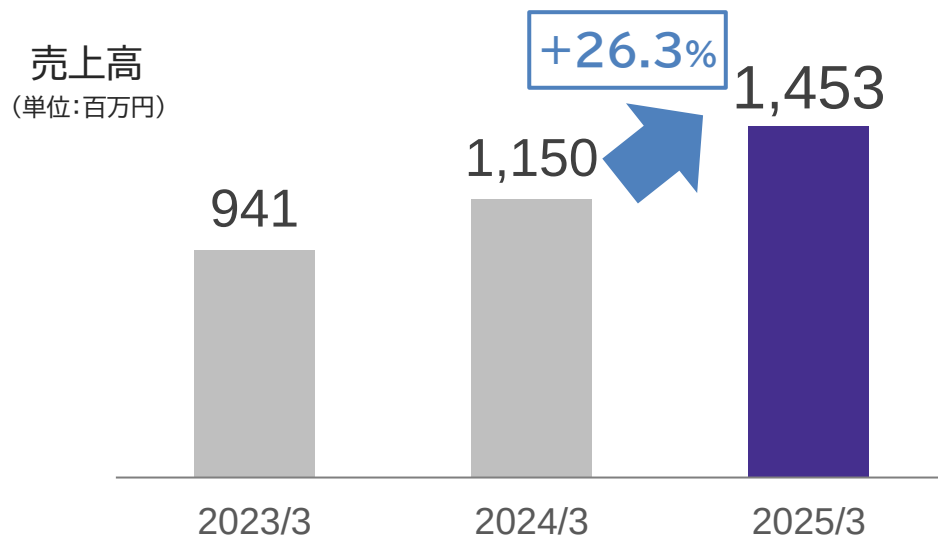
<主要KPI>

	前年比	評価
1拠点当り 平均売上高	105.3%	上昇 ↑
1拠点当り 平均営利率	+2.1pt	改善 ↑
損益分岐点	△8.3%	改善 ↑

<重点施策の効果>

- 新規紹介キャンペーン、休眠顧客の活性化、合同催事の強化等で1拠点当りの収益は改善
- 販売員稼働率の低下による影響はあった一方で、拠点の統廃合による固定費の減少、販売費用の抑制等で赤字幅は縮小

■ 前期グループ入りした「灯学舎」が寄与、既存2社も順調に推移し増収増益



<主要KPI>

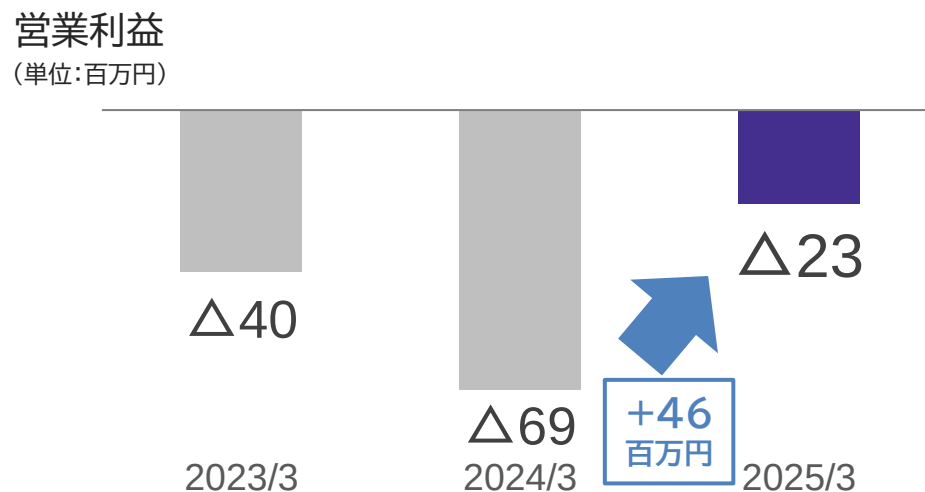
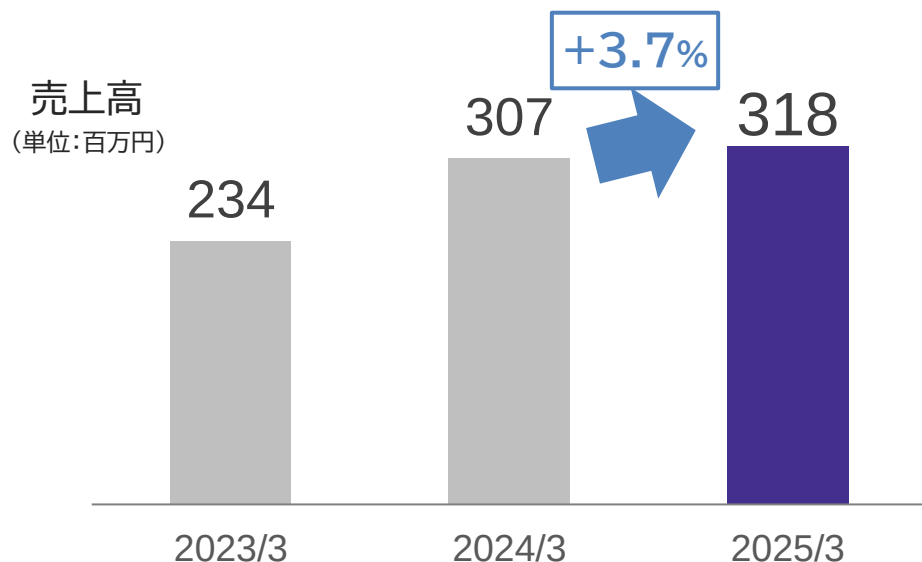
※既存2社対象

	前年比	評価
1教室当り 平均売上高	103.7%	上昇 ↑
1教室当り 平均営利率	+1.7pt	上昇 ↑
損益分岐点	△5.0%	改善 ↑

<重点施策の効果>

- 前期グループ入りした「灯学舎」が期首より売上に寄与。PMIも順調に進捗。
- 若手従業員の積極採用、継続的な現場力の改善活動等により、1教室当り売上・営利率とも上昇
- 季節講習の売上が堅調に推移し、利益率も上昇

■ 仕入、店舗オペレーションの改善等の構造改革が進展し、赤字幅は大幅縮小



<主要KPI>

	前年比	評価
1店舗当り 平均売上高	104.3%	上昇 ↑
店舗販売 売上高	+17.8%	改善 ↑
損益分岐点	△20.3%	改善 ↑

<重点施策の効果>

- 仕入先の安定化により商材不足が解消。販売価格の上昇、仕入原価の低下に繋がり収益性改善
- 販売オペレーションの改善が進み、高粗利商品が多い店舗販売が伸びる
- 粗利率の改善に加え、倉庫・店舗作業の内製化が進み固定費が減少、損益分岐点は大幅に改善

※ポップアップストアの場合は営業日数で換算

目次

- I. エグゼクティブサマリー
- II. 2025年3月期 決算概要
- III. 中期経営計画の進捗
- IV. 2026年3月期 計画
- V. Appendix

■ 初年度の3つの重点取り組みは、ほぼ計画通りに進捗

重点取り組み

取り組み結果

人的資本



人的資本を
より活かす経営

人事機能のケイパビリティを強化

- ・ 人事担当者向け研修の実施、サクセッションプランの策定・実行を促進。持続的な組織体制の構築が進む。

収益安定



既存事業の
収益安定化

重点施策が着実に進展

- ・ 全部門で収益性が改善。前期赤字の部門も採算改善、教育事業は増収増益を継続、事業拡大が進む。

資本/株価



資本コストや株価
を意識した経営

収益性、資本効率改善、情報発信力を強化

- ・ 既存事業の収益改善でEBITDAマージン向上、黒字化でROEプラス転換、認知度向上を目的に発信力強化

■ 人事機能のケイパビリティ向上による採用力強化と事業継続安定化に向けた取り組みを推進

教育研修の充実

- ・ 採用力の強化を目的としたグループ内特別研修プログラムを実施
- ・ 各人事担当者の業務習熟度に合わせた個別レクチャーを交えた支援

➡ 採用競争における優位性を確保し、採用活動の強化に繋げる

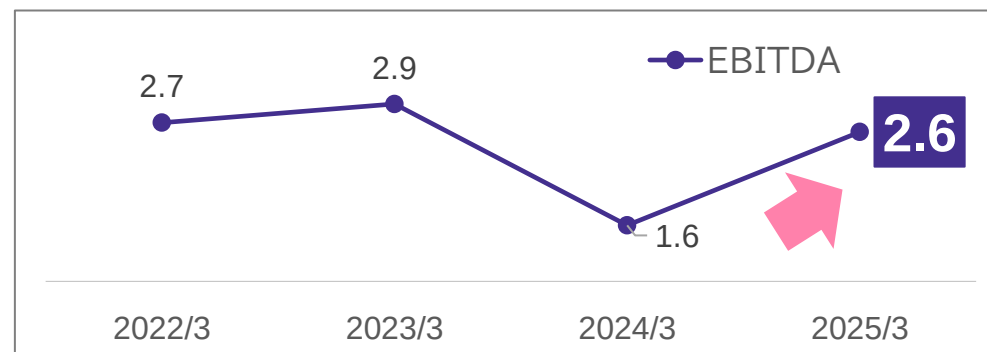
サクセッションプランの策定・実行

- ・ 各部署の高齢化進行に対応するため、次世代リーダー育成に着手
- ・ 長期的な事業継続と安定成長を支える人財の強化

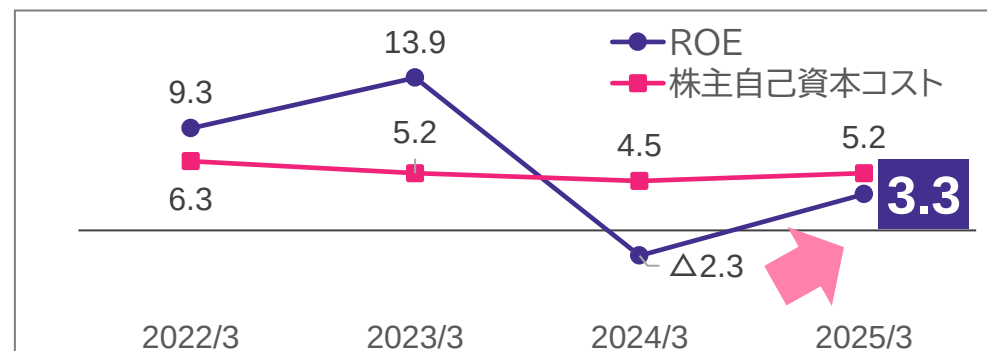
➡ 組織の持続的成長を実現し、柔軟に対応できる体制を構築

■ 収益性・資本効率の改善に加え、企業情報発信力の向上を図る

収益性の向上



資本効率の改善

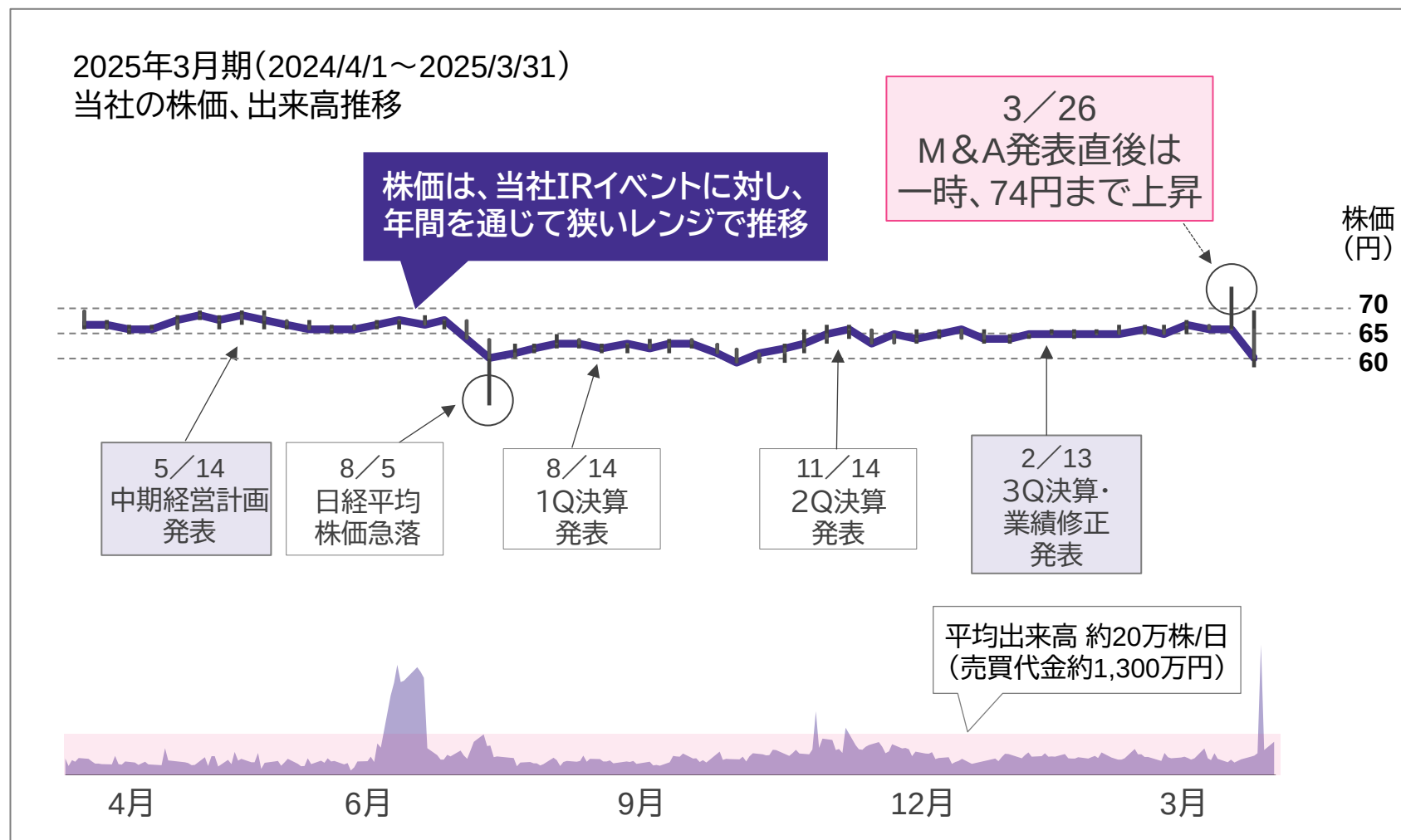


IR活動を強化

認知度向上を目的に企業情報の配信を強化

- 投資家、アナリストとのコミュニケーション強化
- 複数Web媒体を活用した決算・IR情報の配信強化
- IRサイトの更新、メディア取材への積極的な対応 等

- IRイベントに対する市場の反応は鈍く、株価は狭いレンジで停滞。
一方で、M&A発表時は一時的に株価は大きく変動



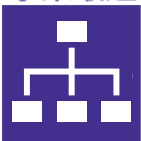
目次

- I. 2025年3月期の総括
- II. 2025年3月期 決算概要
- III. 中期経営計画の進捗
- IV. 2026年3月期 計画**
- V. Appendix

中計 テーマ 成長期待感を醸成し、 市場からの評価を獲得する

重点取り組み(2026年3月期~)

事業最適



事業ポートフォリオの最適化

- 2つの戦略的セグメント体制の構築で持続的な企業価値の創出を目指す

人的資本



人的資本をより活かす経営

- 成長力を支える人財力の強化・蓄積したノウハウの共有による生産性の向上

資本/株価



資本コストや株価を意識した経営

- 情報発信力の強化・投資家との建設的な対話により、成長期待感を高める

2030年ビジョン
従業員が投資したくなる会社へ

人的資本
投資

組織
活性化

人財投資から始まる
『Goodサイクル』の実現

ステーク
ホルダー
へ還元

業績の
向上

2027

2026

2025

2027年3月期 計画

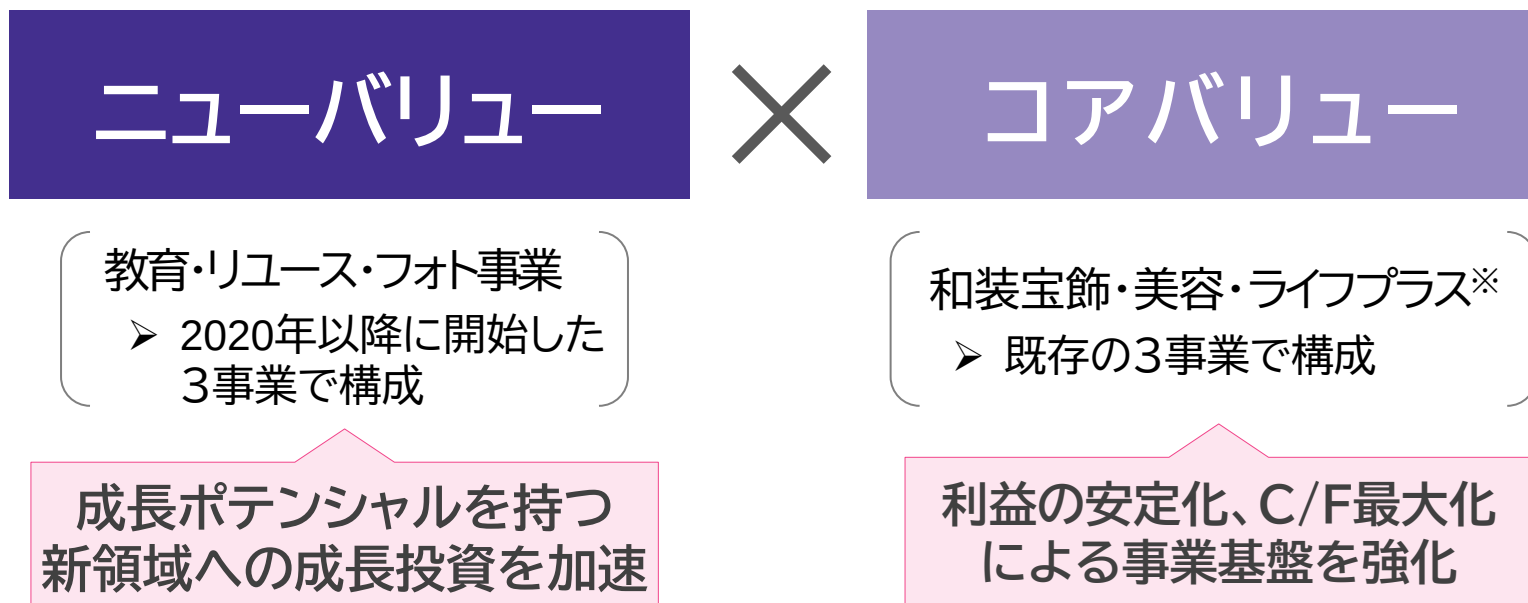
売上高 : 175~185億円
EBITDA : 7~8億円

- 事業ポートフォリオの最適化に向け、2つの報告セグメントに再編
➡戦略を明確化し、成長投資と事業基盤の強化で企業価値向上を図る

従来セグメント(～2025年3月期)

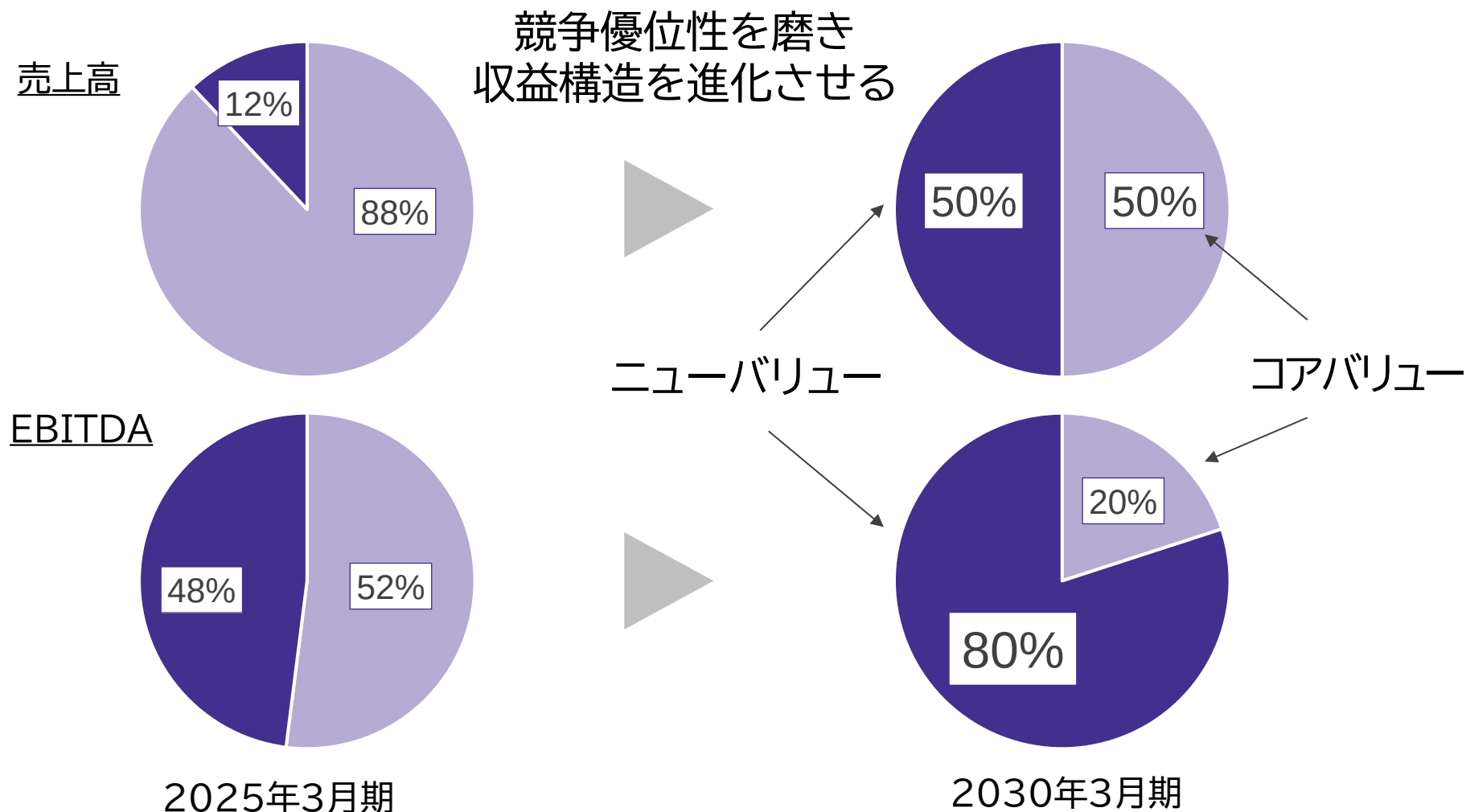


新セグメント(2026年3月期～)



※ 旧DSM事業(2026年3月期より事業名変更)

- 蓄積した顧客基盤・運営ノウハウを最大限に活用し、各事業の競争優位性を高め、ニューバリューの伸長により収益の拡大を図る



■ 中計2年目として重要なフェーズにあたる今期、各施策を着実に推進し、計画の実現に向けた基盤を固める

重点取り組み

今期の主な取り組み

事業ポートフォリオ の最適化

- ・ 事業領域ごとの戦略的競争優位性の強化
- ・ 共創パートナーシップの推進(M&A、事業間シナジー)
- ・ 着実なPMIの推進

人的資本をより 活かす経営

- ・ 成長を支える人財の採用、育成の推進
- ・ 次世代マネジメント人財の育成
- ・ モチベーションを高める制度、環境の整備

資本コストや株価を 意識した経営

- ・ 投資家との接点拡大に向けた取り組みの強化
- ・ 経営へのフィードバックを促進する対話の質の向上
- ・ 市場の理解度を促す情報開示と発信力強化

■ (株)薬師スタジオの株式取得（2025年4月1日）

事業内容：写真撮影、衣装レンタル、ヘア、メイク、着付

拠点数：スタジオ 4店、レンタル専門店 1店

直近業績：売上高1億72百万円 (2024年10月期)

事業の特徴(競争優位性)

- ✓「一流」へのこだわりによる高品質なサービス提供
- ✓独自性を活かした新市場への先進的なサービス展開
- ✓ SNS活用とトレンド対応による若年層向け集客力

【既存事業とのシナジーの創出】

- 美容・和装との高い親和性を活かした統合的新サービスによるシナジー創出を促進
- 成長が期待されるペットフォト市場の展開による新規需要の取り込み
- ライフイベントを軸とした継続的な顧客接点によるLTVの最大化

新たな顧客体験を創出し、差別戦略で優位性を打ち出す



装いと美を通じた彩りをご提案



YAKUSHI
STUDIO

未来へつなぐ一流のこだわり

■ (株)ニューヨークジョーエクスチェンジの株式取得（2025年6月2日予定）

事業内容： 古着の売買業

拠点数： 店舗 3店(下北沢、吉祥寺、渋谷)

直近業績： 売上高4億92百万円 (2024年11月期)

事業の特徴(競争優位性)

- ✓ ユニークな店舗デザインによる空間体験の提供
- ✓ 専門スタッフによるコーディネート提案
- ✓ 商品交換可能な独自の「トレード方式」を導入

【リユース事業と先進性の強化】

- ・ 市場規模が拡大するリユース市場において2社目をグループに迎え、事業展開を強化
- ・ SNSで高い発信力等の経営ノウハウを取り込み、店舗運営・マーケティング力に活かす
- ・ ブランドシナジーにより、信頼、共感の向上と顧客基盤の拡大に繋げる

リユース市場の展開強化に加え、ブランドシナジーで成長



伝統的ブランド
伝統に息づく美の提案



先進的ブランド
文化を再構築する先進感覚

■ 美容子会社 (株)ヤマノプラスを本体に吸収合併（2025年10月1日予定）

本体との組織一体化を図り、和装宝飾事業との**事業間シナジー**を強化

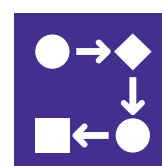
➡グループ内の多様なサービスを活かし、独自性のある提供価値で差別化を図ることで、**競争優位性**を高める



顧客接点拡大に
向けた商品・
サービス力の強化



人財の相互交流
による販売力・
提案力の向上



管理業務効率化
によるプロセス
の最適化

➤ 市場競争の激化に対応した新商品・サービス創出による顧客接点の拡大

➤ 販売基盤・ブランド・専門性の融合による人財交流と組織力の強化

➤ 業務フローの効率化と連携強化による管理業務の迅速化・高精度化の推進

- 採用・育成の強化に加え、環境整備やモチベーション向上施策を通じて、人財の定着を促し、持続的成長を支える人財基盤の強化を推進

主な推進項目

● 持続的成長を支える人財の確保と育成

- 新卒・中途・幹部候補を含む多様な人財の採用強化と定着支援を行い、事業戦略に即した人財ポートフォリオを最適化する

● 次世代マネジメント人材の育成と登用

- マネジメント研修の体系化と評価基準の透明化、キャリアパスの明確化を進め、次世代リーダーの育成を推進する

● モチベーションを高める制度・環境の整備

- 柔軟な働き方や支援制度を整備し、エンゲージメント向上施策を推進することで、働きやすい職場環境を目指す

- 経営戦略と連動した対話型IRの推進を図り、企業価値への理解と評価を促進し、成長期待感を高めていく

➡マテリアリティを起点に、投資家との積極的な対話を通じて、期待や新たな課題を認識し、戦略の見直しや精度の向上に活かす

当社グループのマテリアリティ



ソフトと価値の提供
(競争優位性の向上)



共創パートナーシップ
の推進



多様な人財の活躍と
有機的なむすびつき
による生産性の向上



脱炭素社会・循環経済に
適合した事業運営



コーポレートガバナンス
の強化

2026年3月期 通期業績予想

(単位:百万円)

	2025年3月期 (実績)	2026年3月期 (予想)	増減額	増減比(%)
売上高	13,964	14,400	+ 435	+3.1
EBITDA※	368	640	+ 271	+73.9
EBITDAマージン	2.6%	4.4%	+ 1.8P	—
営業利益	256	500	+ 243	+ 95.3
経常利益	236	450	+ 213	+ 90.4
当期純利益	41	320	+ 278	+ 665.1
EPS(円)	1.20円	9.18円	+ 7.98	—
1株配当(円)	1.0円	1.5円	+ 0.5	—

※EBITDA 営業利益と減価償却費(のれんに係る償却費含む)の合計額

■ 和装部門の増収予測について

コアバリューセグメントに含まれる和装部門においては、大規模なシステム投資を実施し、販売管理システムの入れ替えを行っており、2026年3月期の期首より新販売管理システムの運用を開始しております。

新販売管理システムの導入により、従前一括して顧客への引渡しを行っていた商品等の一部について、商品ごとに引渡しを行う体制の整備が可能となったため、和装部門では2026年3月期の期首から販売管理に係る業務プロセスを変更し、商品の引渡しが早期化されております。

当該変更に伴い、当社の収益認識基準に照らして、和装部門における一部の取引につき売上が早期に計上されることとなりました。

この結果、2026年3月期第1四半期において前年同期比での売上の増加が見込まれております。

なお、当該影響は収益認識時期の早期化に伴う一時的なものであると判断しておりますが、第1四半期における増収増益が通期の業績に寄与することとなるため、2026年3月期の通期においても増収増益となる見通しです。

目次

- I. 2025年3月期の総括
- II. 2025年3月期 決算概要
- III. 中期経営計画の進捗
- IV. 2026年3月期 計画
- V. Appendix

会社名	株式会社ヤマノホールディングス	事業内容	・美容室、ネイルサロンの運営 ・和装品、宝飾品、毛皮、洋装品、寝装品、健康関連商品の販売 ・学習塾の運営 ・古着の買取/販売、フォト事業
設立	1987年2月20日	本社所在地	東京都渋谷区代々木1-30-7 ヤマノ24ビル
資本金	10,000,000円	主要株主	(株)ヤマノネットワーク 13.7% 山野義友 10.9% (株)ヤマノビューティメイトグループ 9.7% 山野功子 6.0% 山野美容商事株式会社 5.4% ※2025年3月末日現在
株式上場	1997年11月 日本証券業協会 (現 東京証券取引所JPXスタンダード) 証券コード：7571	発行済株式数	35,830,058株(自己株式を含む) ※2025年3月末日現在
業種	小売業	株主数	5,416名 (2025年3月末日現在)
決算月	3月	主要グループ会社	株式会社ヤマノプラス 株式会社すずのき 株式会社マンツーマンアカデミー 東京ガイダンス株式会社 株式会社灯学舎 株式会社OLD FLIP 株式会社ヤマノセイビング 株式会社薬師スタジオ
代表者名	代表取締役社長CEO 山野 義友		
従業員数	単体222名、連結545名 (2025年3月31日現在、女性比率 約70%)		

美道五原則

(髪、顔、装い、精神美、健康美)

企業理念

こころが明るく美しくなければ、外観の美しさは作られない。

心身の健康が外観の美を形作り、外観が美しくなることによって、また、心身ともに穏やかな状態が作られていく。

創業者山野愛子が生涯をかけて提唱し続けた美道五原則とは、

「髪」「顔」「装い」「精神美」「健康美」という五つの要素が内面と外見の両方で調和し合い、相互に影響し合って、真の人間の本当の美しさが生まれると定義した人類学における理念です。

Mission(私たちの使命)

豊かさと彩りあるライフスタイルを創造し続けます

Vision(2030年に向けてのビジョン)

従業員が投資したくなる会社へ

Value(私たちの価値観と行動規範)

我らに奉仕の心あり

我らに団結の力あり

我らに実践の斗志あり

我らに必勝の信念あり

我らに目標達成の行動あり

- 私たちは、謙虚に学ぶ姿勢を忘れずに、感謝する心を大切にします。
- 私たちは、自己成長に励み、互いに個性を尊重し、信頼し合い、結束する力を持ちます。
- 私たちは、最善の成果が得られるよう、誇りと情熱をもって、やり抜く強い意志を持ちます。
- 私たちは、いかなる状況においても、自分の能力・努力を信じ、必ず成功すると確信します。
- 私たちは、コンプライアンスを遵守し、「行動なくして成果なし」の精神で、迅速かつ柔軟に考動します。

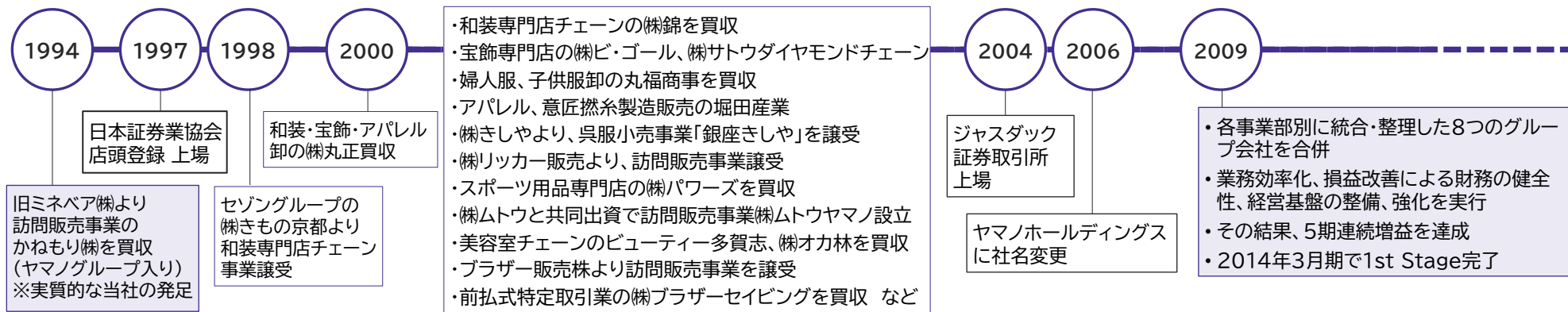
創業

M&Aで事業領域の拡大に乗り出す

第2創業1st Stage

<2001～2007年に買収、事業譲受した主な会社、事業>

<持株会社制から事業本部制に移行>



第2創業2st Stage

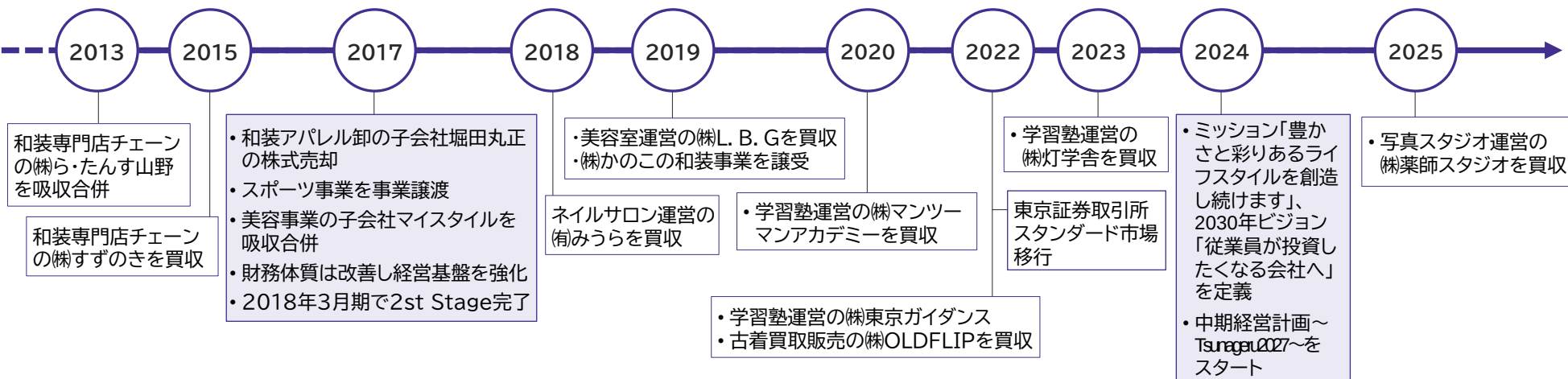
第2創業3rd Stage

中期経営計画 2027

<本格的な事業再編を実行>

<M&Aを継続、新規事業領域への投資拡大>

<成長期待感を醸成、市場の評価獲得>

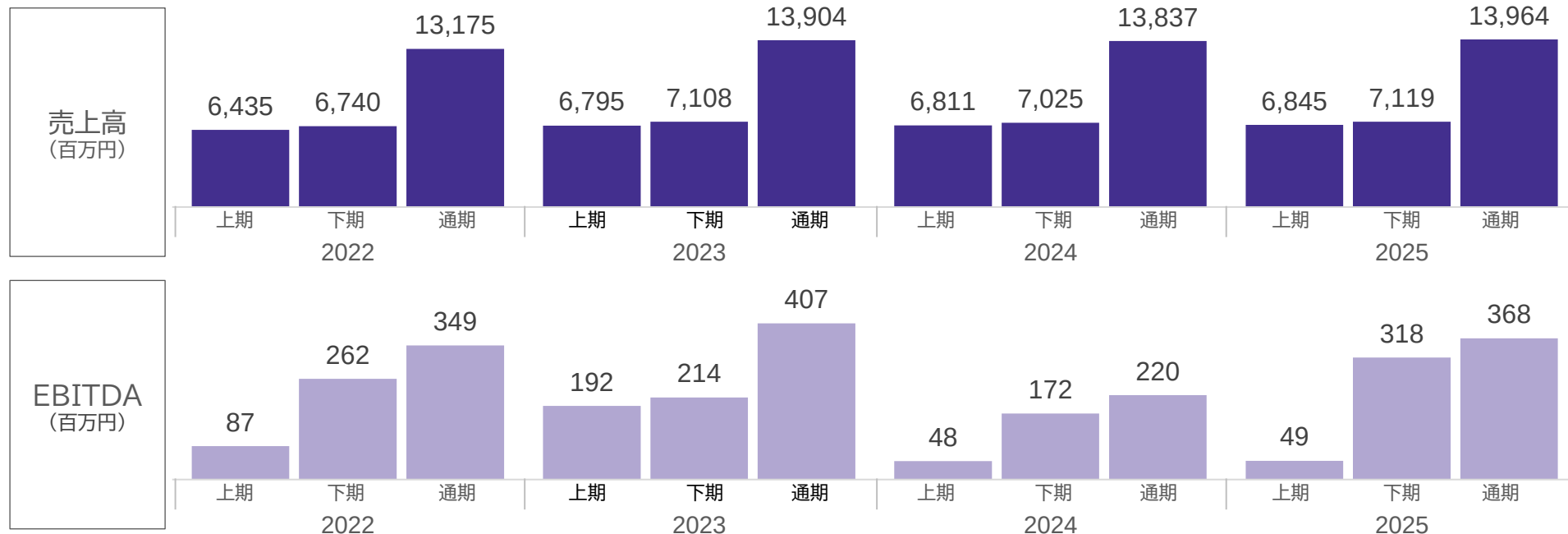


連結業績推移



Yamano Holdings

	2022年3月期			2023年3月期			2024年3月期			2025年3月期		
	上期	下期	通期	上期	下期	通期	上期	下期	通期	上期	下期	通期
売上高	6,435	6,740	13,175	6,795	7,108	13,904	6,811	7,025	13,837	6,845	7,119	13,964
EBITDA	87	262	349	192	214	407	48	172	220	49	318	368
営業利益	54	226	281	144	153	297	△8	109	100	△5	261	256
経常利益	44	220	265	140	146	286	4	97	102	△13	249	236
当期純利益	△29	131	101	54	119	173	△9	△19	△28	△63	105	41
EBITDAマージン	1.4%	3.9%	2.7%	2.8%	3.0%	2.9%	0.7%	2.5%	1.6%	0.7%	4.5%	2.6%
営業利益率	0.8%	3.4%	2.1%	2.1%	2.2%	2.1%	△0.1%	1.6%	0.7%	△0.1%	3.7%	1.8%
経常利益率	0.7%	3.3%	2.0%	2.1%	2.1%	2.1%	0.1%	1.4%	0.7%	△0.2%	3.5%	1.7%
当期純利益率	△0.5%	1.9%	0.8%	0.8%	1.7%	1.2%	△0.1%	△0.3%	△0.2%	△0.9%	1.5%	0.3%



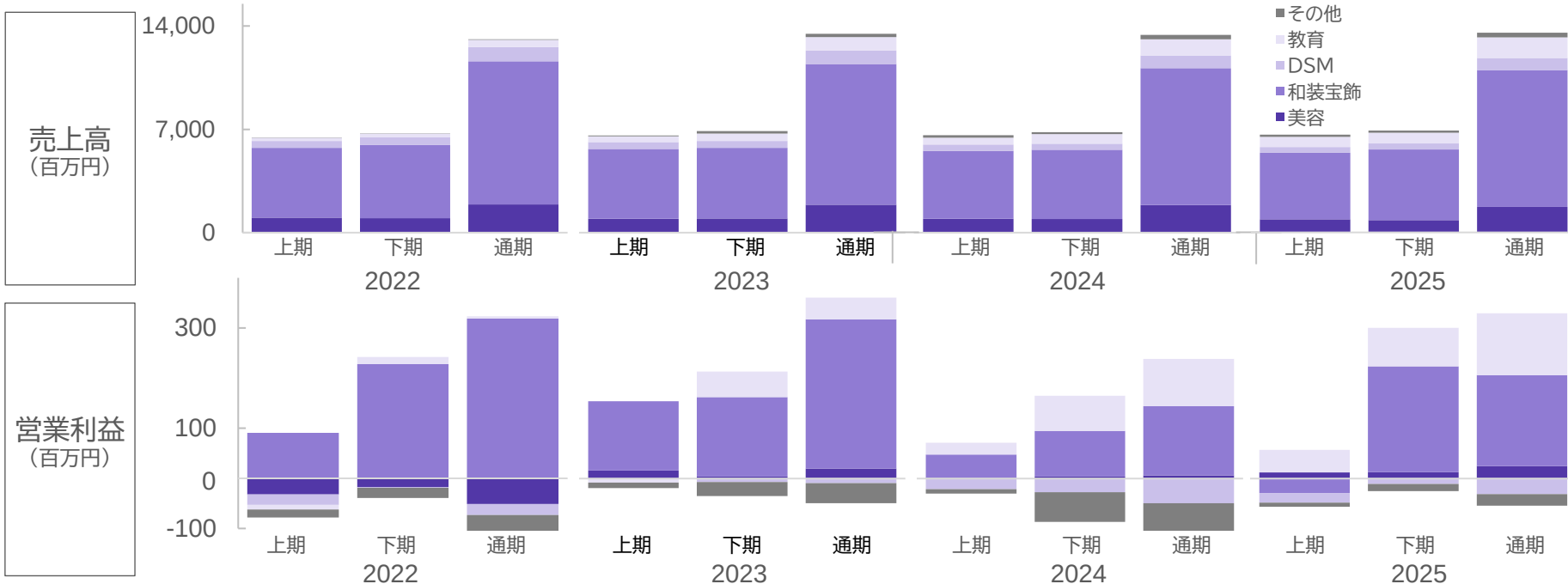
セグメント別業績推移



Yamano Holdings

売上高	2022年3月期			2023年3月期			2024年3月期			2025年3月期		
	上期	下期	通期	上期	下期	通期	上期	下期	通期	上期	下期	通期
美容	1,011	980	1,991	968	991	1,960	971	960	1,931	916	860	1,776
和装宝飾	4,731	4,974	9,706	4,883	4,937	9,821	4,743	4,836	9,579	4,646	4,936	9,582
DSM	464	504	968	473	472	946	439	429	868	404	429	834
教育	222	252	474	407	534	941	493	656	1,150	714	738	1,453
その他	5	28	34	62	171	234	164	142	307	163	154	318

営業利益	2022年3月期			2023年3月期			2024年3月期			2025年3月期		
	上期	下期	通期	上期	下期	通期	上期	下期	通期	上期	下期	通期
美容	△32	△18	△51	16	4	20	1	4	6	12	13	25
和装宝飾	91	228	319	138	158	297	47	91	138	△29	210	181
DSM	△21	△1	△22	△1	△7	△9	△21	△27	△49	△19	△11	△31
教育	△9	14	4	△7	51	43	23	70	94	45	77	123
その他	△16	△20	△37	△11	△28	△40	△39	△29	△69	△8	△14	△23



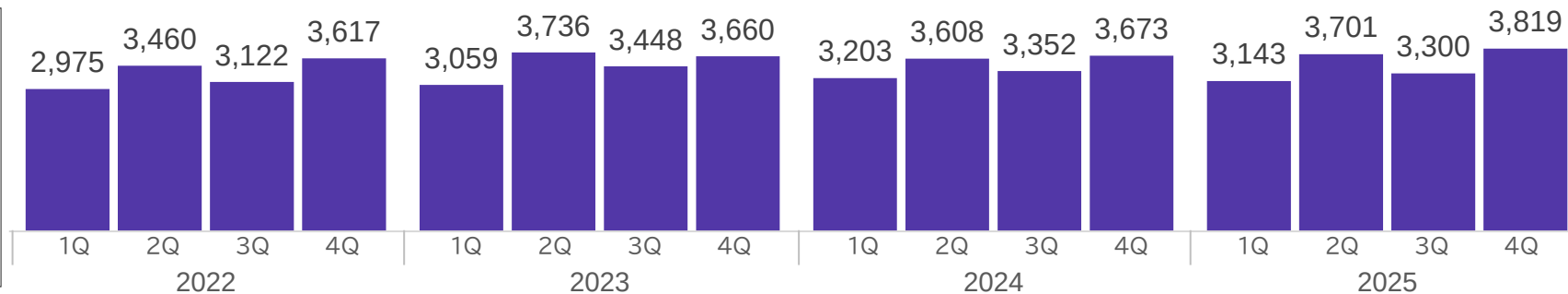
四半期業績推移



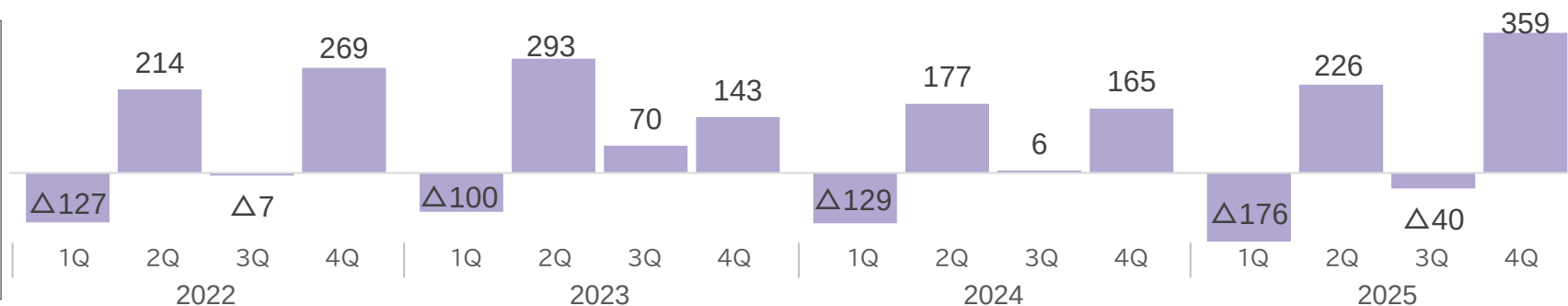
Yamano Holdings

	2022年3月期				2023年3月期				2024年3月期				2025年3月期			
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q
売上高	2,975	3,460	3,122	3,617	3,059	3,736	3,448	3,660	3,203	3,608	3,352	3,673	3,143	3,701	3,300	3,819
EBITDA	△127	214	△7	269	△100	293	70	143	△129	177	6	165	△176	226	△40	359
営業利益	△143	197	△25	252	△119	264	39	113	△157	148	△20	129	△204	199	△68	329
経常利益	△148	193	△27	248	△124	264	36	109	△158	163	△24	121	△209	196	△74	324
当期純利益	△179	150	△51	182	△162	217	1	117	△124	115	△23	4	△171	107	△158	264
EBITDAマージン	△4.3%	6.2%	△0.2%	7.5%	△3.3%	7.9%	2.0%	3.9%	△4.0%	4.9%	0.2%	4.5%	△5.6%	6.1%	△1.2%	9.4%
営業利益率	△4.8%	5.7%	△0.8%	7.0%	△3.9%	7.1%	1.1%	3.1%	△4.9%	4.1%	△0.6%	3.5%	△6.5%	5.4%	△2.1%	8.6%
経常利益率	△5.0%	5.6%	△0.9%	6.9%	△4.1%	7.1%	1.0%	3.0%	△5.0%	4.5%	△0.7%	3.3%	△6.7%	5.3%	△2.2%	8.5%
当期純利益率	△6.0%	4.3%	△1.6%	5.0%	△5.3%	5.8%	0.1%	3.2%	△3.9%	3.2%	△0.7%	0.1%	△5.4%	2.9%	△4.8%	6.9%

売上高
(百万円)



EBITDA
(百万円)



セグメント別 四半期業績推移



Yamano Holdings

売上高	2022年3月期				2023年3月期				2024年3月期				2025年3月期			
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q
美容	511	499	517	462	497	471	531	460	484	486	499	460	481	434	444	416
和装宝飾	2,142	2,589	2,199	2,774	2,203	2,679	2,341	2,596	2,222	2,521	2,302	2,533	2,092	2,553	2,223	2,713
DSM	225	238	261	242	227	246	236	236	208	231	215	213	187	216	212	216
教育	94	128	131	120	129	277	252	282	206	286	266	390	305	408	343	395
その他	2	3	11	16	2	60	86	84	81	83	67	74	76	87	76	77

営業利益	2022年3月期				2023年3月期				2024年3月期				2025年3月期			
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q
美容	△20	△12	5	△23	15	1	13	△9	△1	3	15	△11	10	1	11	1
和装宝飾	△111	203	△50	279	△75	214	9	149	△96	143	△27	118	△163	133	△69	280
DSM	△18	△2	1	△2	△7	6	△2	△4	△18	△3	△13	△13	△18	0	△7	△4
教育	△13	4	12	1	△45	37	27	23	△14	37	37	33	△10	55	25	52
その他	△2	△14	△10	△9	△7	△3	△14	△14	△20	△19	△16	△12	△7	0	△8	△6



連結貸借対照表/キャッシュフロー計算書推移



Yamano Holdings

(単位:百万円)

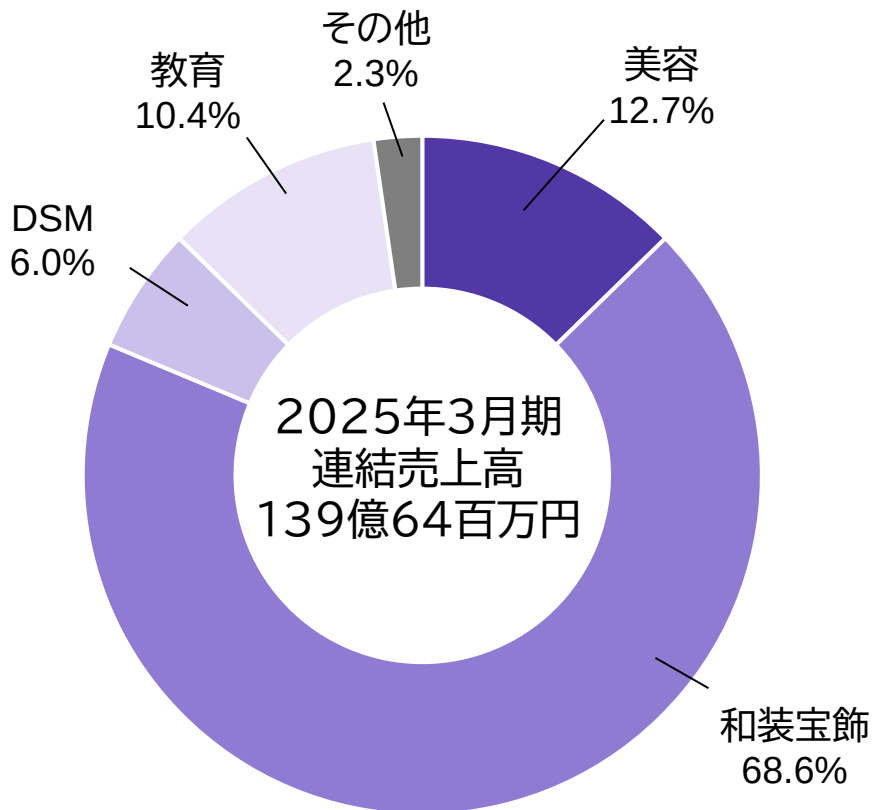
B/S	2022年3月期				2023年3月期				2024年3月期				2025年3月期			
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q
流動資産合計	8,615	8,226	8,836	7,831	7,740	7,624	7,900	7,477	7,482	7,699	7,153	6,865	6,790	6,135	6,571	6,077
現金及び預金	4,624	4,197	4,520	3,777	3,373	3,499	3,581	3,194	3,249	3,525	2,898	2,732	2,585	2,384	2,573	2,438
売掛金	2,198	2,299	2,492	2,421	2,550	2,486	2,621	2,561	2,495	2,533	2,627	2,551	2,407	2,109	2,357	2,127
固定資産合計	1,559	1,545	1,495	1,465	1,864	1,853	1,855	1,880	1,901	1,865	2,001	1,781	1,830	1,767	1,796	1,879
有形固定資産合計	433	435	429	372	389	382	375	339	337	323	341	317	316	319	326	353
無形固定資産合計	19	17	16	23	388	377	360	344	328	339	426	363	369	353	400	426
のれん	3	2	2	9	368	354	339	325	311	318	395	338	322	306	291	300
投資その他の資産の合計	1,107	1,091	1,050	1,069	1,086	1,093	1,119	1,196	1,234	1,201	1,233	1,100	1,144	1,095	1,069	1,098
資産合計	10,174	9,772	10,332	9,297	9,604	9,477	9,756	9,357	9,383	9,564	9,155	8,647	8,620	7,903	8,367	7,956
流動負債合計	7,202	6,638	7,253	6,168	6,282	5,965	6,345	5,901	6,248	6,449	5,977	5,560	5,761	5,043	5,464	4,817
仕入債務	1,568	1,495	1,870	1,593	1,557	1,633	1,838	1,475	1,652	1,827	1,637	1,684	1,789	1,491	1,640	1,444
短期借入金(1年以内含)	2,772	2,614	2,659	2,285	2,153	2,151	2,108	2,134	2,333	2,492	2,089	1,753	1,674	1,547	1,506	1,385
固定負債合計	2,065	2,072	2,085	1,962	2,356	2,310	2,202	2,124	1,984	1,852	1,944	1,863	1,800	1,707	1,843	1,811
長期借入金	1,603	1,622	1,638	1,548	1,924	1,879	1,756	1,707	1,584	1,465	1,535	1,462	1,379	1,300	1,384	1,299
負債合計	9,267	8,710	9,339	8,131	8,639	8,275	8,547	8,025	8,232	8,301	7,922	7,423	7,562	6,751	7,308	6,628
純資産合計	906	1,061	992	1,165	965	1,201	1,208	1,331	1,151	1,262	1,232	1,223	1,058	1,152	1,059	1,327
株主資本	939	1,089	1,038	1,221	1,023	1,240	1,242	1,359	1,182	1,297	1,273	1,278	1,107	1,214	1,055	1,320
評価・換算差額等	△32	△28	△45	△55	△57	△38	△33	△28	△31	△34	△41	△54	△48	△62	3	7
負債及び純資産合計	10,174	9,772	10,332	9,297	9,604	9,477	9,756	9,357	9,383	9,564	9,155	8,647	8,620	7,903	8,367	7,956

(単位:百万円)

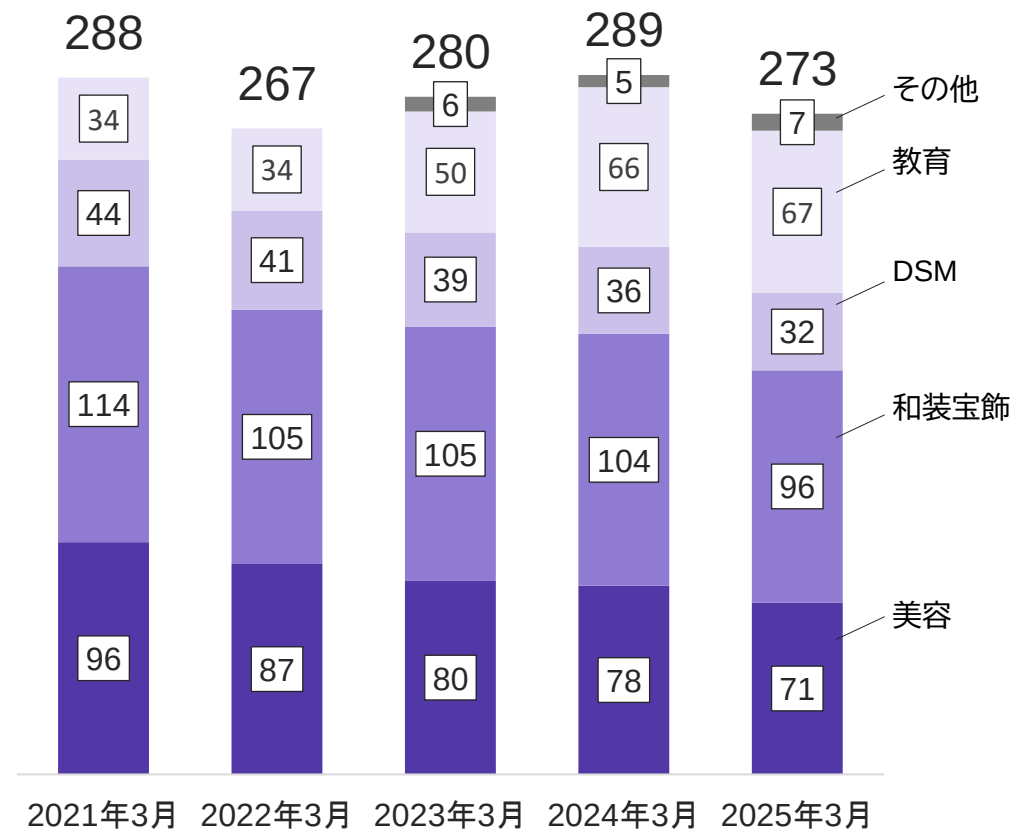
C/F	2022年3月期		2023年3月期		2024年3月期		2025年3月期	
	中間	期末	中間	期末	中間	期末	中間	期末
営業活動によるC/F	△1,241	△1,264	△120	△108	199	209	129	384
投資活動によるC/F	△43	△19	△211	△219	△48	9	△98	△126
財務活動によるC/F	8	△412	54	△129	54	△806	△378	△551
フリーC/F	△1,284	△1,283	△331	△328	151	219	31	258
C/F増減額	△1,276	△1,696	△277	△457	205	△587	△347	△293
C/F期末残高	3,709	3,288	3,010	2,830	3,036	2,243	1,896	1,950

セグメント別売上構成比・店舗推移

連結売上高構成比率



セグメント別店舗・教室数推移



■ 2024年7月30日にコーポレートサイトを全面リニューアルいたしました

<リニューアルポイント>

- 経営理念、事業内容等の企業情報の充実
- 多様な人財を迎えるための採用情報の充実
- サステナビリティへの取り組みの共有
- ビジュアルの強化
- ユーザービリティの向上

当社ホームページ
はこちら ⇒



※トップページ(「豊かさと彩り」をテーマにしたWebデザインを採用)



※創始者 山野愛子キャラクターが求職者に向けて当社を紹介するページ

ディスクレマー

本資料は、当社の業績概要、ならびに今後の経営ビジョンに関する情報の提供を目的としたものであり、当社が発行する有価証券の投資を勧誘することを目的としたものではありません。また、本資料は注記のない限り開示時点の決算データ及び直近の事業データに基づいて作成されております。

本資料に記載された意見や予測などは、資料作成時点の当社の判断であり、その情報の正確性、完全性を保証し又は約束するものではなく、また今後、予告なしに変更されることがあります。

お問い合わせ
経営企画部
Tel: 03-6743-9377
Mail: ir@yhc-net.com